

市庁舎整備に関する調査特別委員会(第10回)

日 時：平成25年7月29日(月)

文教経済・建設水道委員会終了後

場 所：鳥取市役所6階 第1会議室

— 日 程 —

1 開 会

2 報告案件

鳥取市庁舎整備推進本部会議の開催状況について

市庁舎整備に関する説明・意見交換会開催結果について

3 そ の 他

4 閉 会

第3回 鳥取市庁舎整備推進本部会議

日時：平成25年7月24日（水）

午前9時～

場所：鳥取市役所本庁舎6階全員協議会室

次 第

1 開 会

2 議 題

（1）各専門部会などの取り組み状況について

（2）鳥取市庁舎整備に関する説明・意見交換会の開催結果について

（3）地域審議会への説明・意見交換について

（4）その他

3 閉 会

鳥取市庁舎整備推進本部 会議等の開催状況

1 推進本部会議

回	日時	場所	議題など
1	H25.6.7 (金) 13:00～	本庁舎 4 階 第 2 会議室	・鳥取市庁舎整備専門家委員会の報告 ・市庁舎整備の基本的な考え方（たたき台） ・鳥取市庁舎整備推進本部の設置 ・専門部会の設置
2	H25.6.27 (木) 9:00～	本庁舎 4 階 第 2 会議室	・幹事会、専門部会の実施状況 ・鳥取市庁舎整備の基本方針案 ・説明、意見交換会の開催

2 幹事会議

回	日時	場所	議題など
1	H25.6.13 (木) 11:00～	本庁舎 4 階 第 2 会議室	・幹事会の取り組み ・今後のスケジュール
2	H25.6.21 (金) 13:30～	本庁舎 6 階 議会会議室	・専門部会の実施状況 ・鳥取市庁舎整備の基本方針案 ・説明、意見交換会の開催 ・今後のスケジュール
3	H25.7.9 (火) 9:00～	本庁舎 6 階 第 1 会議室	・専門部会の実施状況 ・全体構想のまとめ方 ・説明、意見交換会の開催方法 ・今後のスケジュール
4	H25.7.22 (月) 13:30～	本庁舎 6 階 第 1 会議室	・専門部会の実施状況 ・説明、意見交換会の開催結果 ・全体構想のまとめ方 ・今後のスケジュール

3 防災機能強化部会

回	日時	場所	議題など
1	H25.6.13 (木) 10:00～	本庁舎 4 階 第 2 会議室	・部会の進め方
2	H25.6.25 (火) 15:00～	本庁舎 4 階 第 4 会議室	・防災機能の強化 ・今後のスケジュール
3	H25.7.3 (水) 9:00～	本庁舎 4 階 第 4 会議室	・防災機能の強化 ・防災拠点機能と市民サービス機能 ・今後のスケジュール

4 窓口サービス機能強化部会

回	日時	場所	議題など
1	H25.6.13 (木) 9:00～	本庁舎 4 階 第 2 会議室	・部会の進め方
2	H25.6.26 (水) 15:00～	さわやか会館 3 階多目的室	・窓口サービスの見直し検討 ・今後のスケジュール

※その他、担当者会議等開催

市庁舎整備に関する説明・意見交換会開催概要

1 概要

平成25年7月13日（土）、14日（日）、鳥取市庁舎整備に関する説明・意見交換会を5会場で開催し、延べ582人にご参加いただきました。

2 開催実績

7月13日（土）

会場・時間	会場発言項目
河原町中央公民館 9:30～11:10 (参加者数) 107人 (発言者数) 11人 (意見用紙数) 47枚	説明会の進行、住民投票、財政、市の進め方、合併特例債、整備費用、今後のスケジュール、地盤 など
気高町総合支所 13:30～15:10 (参加者数) 86人 (発言者数) 13人 (意見用紙数) 33枚	住民投票、住民投票2号案の検証結果、市の進め方、基本方針案、庁舎の機能、市長と市議会、今後のスケジュール、防災 など
鳥取市国際交流プラザ 17:30～19:15 (参加者数) 51人 (発言者数) 10人 (意見用紙数) 24枚	市民との対話、財政、合併特例債、庁舎の場所、住民投票、住民投票2号案の検証結果、市長選、専門家委員会、今後のスケジュール など

7月14日（日）

会場・時間	会場発言項目
さざんか会館 9:30～11:15 (参加者数) 230人 (発言者数) 14人 (意見用紙数) 73枚	市の進め方、住民投票、市民との対話、合併特例債、防災、市民サービス、特別委員会の最終報告、基本方針案、道州制、庁舎の場所 など
国府町中央公民館 13:30～15:10 (参加者数) 108人 (発言者数) 10人 (意見用紙数) 34枚	基本方針案、住民投票2号案の検証結果、住民投票、今後のスケジュール、市の進め方、市長選 など

※意見用紙：市庁舎整備に関するご意見を自由に記載いただくため、参加者全員に配布した用紙。

3 開催結果

いただいたご意見などについては、今後、市庁舎整備の全体構想を取りまとめるにあたり、参考とします。

また、説明・意見交換会の議事録等については、市公式ホームページに公開するとともに、本庁舎、駅南庁舎、各総合支所などに配置します。

7月地域審議会 開催日程及び議題について

平成25年7月2日

審議会名	日 時・会 場	議 題
国 府 地域審議会	7月29日（月）13：30～ （会場：国府町中央公民館）	1. 看護学校の誘致について 2. 市庁舎整備に関する取り組み状況について 3. その他
福 部 地域審議会	7月31日（水）13：30～ （会場：福部町総合支所 2F 会議室）	1. 看護学校の誘致について 2. 市庁舎整備に関する取り組み状況について 3. 旧福部幼稚園跡利活用にあたり必要となる施設 改修費の予算措置についての回答 4. その他
河 原 地域審議会	7月25日（木）13：30～ （会場：河原町総合支所第 6 会議室）	1. 因幡環境整備施設視察 2. 看護学校の誘致について 3. 市庁舎整備について 4. 今後の地域審議会のあり方について
用 瀬 地域審議会	7月29日（月）14：00～ （会場：用瀬町総合支所）	1. 看護学校の誘致について 2. 市庁舎整備について 3. 委員意見発表（林業・商工） 4. その他については未定
佐 治 地域審議会	7月25日（木）15：00～ （会場：佐治町総合支所第 1 会議室）	1. 市庁舎整備について 2. 佐治地域保育園施設整備事業について 3. 佐治中学校跡地の利活用について 4. 看護学校の誘致について
気 高 地域審議会	7月24日（水）15：00～ （会場：気高町総合支所 会議室）	1. 気高地域の学校のあり方について 2. 看護学校の誘致について 3. 市庁舎整備に関する取組状況について
鹿 野 地域審議会	7月24日（水）13：30～ （会場：鹿野町総合支所 会議室）	1. 看護学校の誘致について 2. 市庁舎整備に関する取組状況について 3. 国民宿舎「山紫苑」のあり方に関する検討会中 間報告について 4. 委員提案議題について 5. その他
青 谷 地域審議会	7月30日（火）15：00～ （会場：青谷町総合支所会 議室）	1. 看護学校の誘致について 2. 市庁舎整備に関する取り組み状況について

【期 間】 平成25年7月24日（水）～7月31日（水）

【情報提供】 看護学校の誘致について
市庁舎整備に関する取り組み状況について

多くのご意見をいただきました（意見記入用紙記入分）

平成 25 年 7 月 13 日（土）、14 日（日）に 5 会場で開催した「市庁舎整備に関する説明・意見交換会」では、会場で意見交換を行うと共に、参加者の皆さんに意見記入用紙をお配りし、ご意見を伺いました。

いただいたご意見（項目ごとにまとめ）と市の考え方は以下のとおりです。

なお、同用紙では説明意見交換会にご参加いただいた感想も伺っており、「前向きな意見が少なかった」、「時間が短かった」、「ヤジがあるのは不満」、「説明を聞けて良かった」、「丁寧に説明してほしい」など、多くお寄せいただきました。今後、説明・意見交換会などを開催する際の参考とさせていただきます。

意見記入用紙提出枚数 211 枚

※順不同。お渡しいただいた順に項目別に分け、個人情報を削除の上、原文どおり掲載。

1 市庁舎整備の基本的な考え方

（１）全体について

〔市の考え方〕

市庁舎整備は長きにわたり鳥取市の課題となっており、本格的に庁舎の耐震診断を行って議論を始めた平成 21 年の春から、5 年目を迎えています。この間、平成 23 年 3 月 11 日には、東日本大震災という未曾有の国難とも言われている大災害が起こりました。巨大な地震による大きな災害に備えることの重要性が皆さんの共通認識になっています。また、鳥取市においても、昭和 18 年 9 月 10 日の鳥取大震災から 70 年目を迎えます。多くの方が犠牲となられたこの大震災を思い起こす時、我々も防災の備えをきちんと速やかに行い、国として予測している南海トラフ地震などに備えなければなりません。この防災の備えをしっかりとしていくことが、鳥取市にとって、あるいは市民にとって重要な課題であり、市民の命とくらしを守るという立場からその点を特に重視して庁舎整備にあたりたいと考えています。

また、市民サービスについて、庁舎が分散しているということから、市民の皆さんに大変なご不自由、ご不便をおかけしているという事実があります。本庁舎から駅南庁舎へ、駅南庁舎から本庁舎、あるいは第 2 庁舎へというように別の庁舎をご案内する件数が年間に約 4500 件と数多くあります。こうした窓口サービスが分散している状況を早く解消しなければならないと痛切に感じているところです。

これらを踏まえ、市庁舎整備の基本方針案を 6 月 27 日にまとめました。前向きにこの緊急かつ重要な課題である市庁舎整備を進めていくことが、市民にとっても鳥取市にとっても明るい将来をしっかりと確保するうえで重要だと考えています。市民の皆さんの意見も伺いながら、今後、機能の強化と経費の抑制を両立させるような市庁舎整備の全体構想を、今後必要な調査も行い、速やかに取りまとめでいきたいと考えています。

〔いただいたご意見など〕

- ・ 2 号案は実現不可能と結論付けがあった。後ろを振り返らず前向きに悔いのない庁舎の建設を願う。市の整備局の案を今後進めるべきである。新築移転を実現し、市民サービスの向上に努める。一部の人に惑わされずに正しく決断し前向きに進む。
- ・ 早急に、費用、整備を隠し事なく発表して実行を行ってください。場所は病院跡地、新築すること。
- ・ 今後、どうまとめられるかは市長に任せますが、いずれにせよ、用瀬地域の住民としては、利便性が良く一箇所で用事が済ませれる庁舎が一番良いと考えております。

- ・ 安心、安全、万満な市民サービスのため新築移転を。
- ・ 防災拠点、利便性、ライフサイクルコストを重点に進めていただきたい。市長のリーダーシップで新築移転を強力に進めてほしい。
- ・ 鳥取市庁舎整備の基本方針案に賛成です。自信を持って進めてください。
- ・ 市庁舎整備を進めてほしいです。
- ・ 新庁舎に賛成です。
- ・ 旧市立病院跡地への新築移転を推進すべきである。
- ・ 住民投票の結果どおり耐震改修で整備すべきである。工事費用はB案の額が固定的なものではなく、10～15%の上下はこの段階では当然誰しも認めるものである。
- ・ 第1号案、駅南市立病院跡地新築移転に大賛成です。明るい未来に向かって頑張ってください。
- ・ 防災機能、ワンストップサービスなどの市民サービス機能、ライフサイクルコスト、アクセスのしやすさなど、長期的な視点で考え、新庁舎は旧市立病院跡地に移転新築すべきと考えています。
- ・ 耐震改修及び一部増築の案は、建築基準法上ムリがあると聞いたことがあるので一刻も早く新築移転に向かうべきだと思います。
- ・ 市庁舎整備の全体構想をまとめることと併せて、事務事業の見直しも議論しないといけないと思います。働いている市職員の方々のことも十分に配慮してください。駅南庁舎にある部署はそのまま生かした方がよいと思います（既存の有効活用）。まちづくりとの観点にも配慮してください。庁舎以外にも付随する施設整備の費用についてもすべて出してください。全体構想策定のためには庁舎内にプロジェクトチームの設置が必要だと思います。
- ・ 早急に整備を進めるべき。駅南病院跡地で進めるべき。
- ・ 今の建物では機能的に限界にきていると思う。若い人のことを考えれば、今建て直しておくべきだと思う。もっと若い人が本気で考えてくれたら、反対する人はほとんど高齢ではないの？
- ・ 市民に対して新築費用がいくらなのか示すべき。
- ・ 旧市立病院跡地に新築に大賛成。自信を持って実行していただきたい。何の事業にも反対はあるものです。
- ・ 今年の国会で道州制法案が通過し、5～6年すれば道州制になる。それを考えて市庁舎計画を。
- ・ 利便性の良い窓口で、広く明るい、市民が心から安らぐよう、新しい市庁舎を整備していただきたい。
- ・ 新市地域に住む者は、今より交通の利便がよいところでの建設を希望します。
- ・ もっと市民感覚は重視した構想プランを日本設計（ひも付き）以外ですべきである。コンサルタントは日本に日本設計クラスのものたくさんある。日本設計にはお土産を裏で段取りしているのか。
- ・ 病院跡に新築移転に賛成です。頑張ってください。
- ・ 耐震改修に賛成する。現在の市役所に行って感じるのは職員の机上是整理整頓できていない。どんな環境になったとしても仕事をする人の考え次第で美しい職場になるはず。働く方の意識を高めていただきたい。
- ・ 早急に設計業務はかかること。基本設計の時点でパブリックコメントの採用を要する。
- ・ 新築移転すべき。
- ・ 市役所の本庁機能は1箇所にとめられてこそ意味がある。また子ども、孫世代のことを考えると、何年使用に耐えるかもわからない耐震改修案は意味のあることとは思えない。したがって最も良い案は市立病院跡地への移転新築案である。

- ・市庁舎の新築移転は不要。この基本方針案は全面撤回し、現地点で耐震改修すればよい。住民投票の結果を尊重すべきである。
- ・新築しないと市民のくらしと命が守れないのか、お金を掛けなくてもできる。今の建物でお金を掛けずにできると思う。
- ・防災、行政サービスも含めて、長期的に考え負担の無い方向で庁舎整備を進めてほしい。個人的にはライフサイクルコストや現庁舎の老朽化も含めて考え、新築移転に賛成です。
- ・私は費用面で新築に反対した一人です。しかし、今、新築でよいの考えになっています。
- ・耐震改修が一番いい案です。
- ・現本庁舎の耐震改修しての市庁舎整備には反対です。古くなった建物に耐震工事を施しても建物の耐用年数は長くなるわけでは無く、老朽化は早いそんなものに貴重な財源を使うのはそれこそ勿体ないことだからです。
- ・本日お配りいただいたパンフレットのとおりに実行していただきたいと思います。
- ・野次に迷わず新築移転に取り組むべし。正しい計画が最後には勝つ。
- ・耐震改修しても結局は新築しなくてはならず、2重投資である、効率が悪い。ただ、新築に当たっては後戻りしないよう、機能充実を図る必要があると思う。
- ・「総合支所を残す」とか「職員スペース確保」は本当に必要か考えた方がいい。新本庁の特色が見えないし、今後の基礎自治体としてのあり方は。
- ・新築移転絶対反対。
- ・改修は2重投資となる。安全安心が大切。市民サービスの向上。
- ・基本方針案に基づき、速やかな整備を進めていただきたい。
- ・これから先、住民が市役所に行く必要なくなる時代がくる。コンピューターが政治をする時代が来るかもしれません。庁舎等無くても政治ができるかもしれません。50年、100年先ですから今急いで新築する必要ありません。
- ・新築移転を力強く進めてください。
- ・住民投票を重視した行政を。経費を掛けずできる方法を考えるべき。今後人口は減少する一方なので、その時考えればいいのではないかな。
- ・全国一小さい県で、又人口も減少傾向になっている現在、住みやすい、生活しやすい市にするため、駅周辺に合併特例債を利用して駅南に移転するのが最良と思われます。今日の参加者の方は、現庁舎の整備を要望された方が多かったと思う。百年先を思うと駅南に持つてくるのが最良と思う。
- ・経費、金額の問題だけではない。少子化時代に車社会時代の庁舎のあり方も展望を持つべきと思う。職員数も減っていくことも予想されること、財政の見通し、税収の見通し、高齢化先進市として福祉のあり方と財政の関係、これらのことも含めて大局的に検討が必要。
- ・今後少子高齢化が進み、人口も減少していくのに、今以上の市庁舎はいらない。今ある庁舎を改修すれば、防災や市民サービスを十分に充実できる立派な建物になると思う。病院跡地に施設を整備しても働いている人（特にトップ）の意識が今のままでは市民サービスの充実はできないでしょう。民意を無視するな、新築反対。
- ・窓口が分散→駅南庁舎へ集約すればよい、たらいまわしになるのは市の広報、案内不足。職員一人あたりの面積が狭い→人口減少になれば職員数も減らせばよい。防災機能の充実是新築しなければできないという根拠は。費用の面でも、周辺整備は新築移転する、しないに関わらず必要なので入れないというのはおかしい（専門家委員会での市当局の説明）。
- ・高齢者の多くなる鳥取市、住みよい安全なまちをめざしてほしい。市立中央病院跡地はもと沼地（海）だったと聞きます。予定以上に金額がかさみます。人口は少なくなります。とりあえずリメイクで良いではありませんか。
- ・新築移転すべき。

- ・機能重視、外観はモニュメント的なものにならないよう。予算はかけるではなく、できるで臨んでいただきたい。
- ・現庁舎の耐震は建設後 50 年以上経過しており、耐震工事にもあまり効果は出ないと思います。それより市民病院跡地への建設が望ましい。しっかりした基礎工事し、できれば分散している庁舎を一箇所に集めて市民サービスをしてはどうか。
- ・また、10 年後、30 年後に市庁舎は本当に必要でしょうか。インターネットで色々な手続きも可能です。道州制のことも考えればなおさらです（現支所を見れば市長の言葉は信じるできません）。
- ・庁舎は機能等、その他利便性を図るべき。
- ・新築移転の方向性が、数日前の新聞で読み、異論なしとして当日の説明会へ参加しなかった人たちが多くと推察しました。説明会の偏った参加者の発言に市長さんはしっかり回答されたことは嬉しく、頼もしく感じました。新築移転により防災と市民サービスに努めていただきたい。
- ・市立病院跡地に新築移転すべきである。今後の鳥取市のシンボルとなるようないいものを建ててほしい。
- ・新築移転に賛成です。
- ・新築は反対であり、民意を反映した建物で防災、安全安心を基本にした最小限の費用の捻出を希望する。
- ・基本構想を早急に進めるべき。
- ・市の方針に沿って早急に整備を進めるよう希望します。
- ・あらためて新庁舎建て替えを早く推進してほしいと思いました。鳥取市の発展に期待を募らせました。
- ・早く進めてほしい。
- ・新築をお願いします。
- ・鳥取銀行等においてある市政 120 年きらめく 120 人があります。現庁舎は昭和 27 年に鳥取大火がおきて再建団体となった鳥取財政の中で昭和 39 年に落成した現庁舎と書いてあります。市民のための新築移転をお願いします。
- ・鳥取市発展のため旧市立病院跡地に建設
- ・一日も早く新築の方向で進んでください。市庁舎は鳥取市民の顔であり、シンボルでもあります。50 年、100 年耐えうる庁舎として、りっぱなものにしてください。市長の今回の決断は必ずや将来にわたってのすばらしい決断となることを確信しています。
- ・トータルのコスト（新築、現本庁舎活用、維持管理費）を示し、早急に方針を決定してほしい。
- ・現庁舎は残すのではなく処分を（用途めぐりまた混乱する心配あり）。防災機能の充実、まちの活性化のためにも新築移転しか考えられません。古くなったものをつついてみてもすぐ壊れます。

（２）「防災と市民サービスの充実強化のため、交通アクセスが良く、敷地が広い旧市立病院跡地において新たな施設の速やかな整備に向けた検討を進めます。」について

〔市の考え方〕

【防災】

防災については、東日本大震災の教訓や、発生の緊迫性が指摘されている南海トラフ地震に対する備えなど、今まさに国を挙げての防災、減災対策の推進をキーワードに、全国的に取り組みが進められています。鳥取市も喫緊の課題として、鳥取大地震から 70 年を迎えるこの年、大規模地震などの災害から「市民の命とくらし」を守るための防災拠点の充実強化をしっかりと前進

させなければなりません。

災害が起きたとき、もっとも重要となるのは初動対応です。そのためには、中枢となる対策本部がしっかり機能することが必要です。迅速かつ的確な初動対応が、被害を軽減する絶対条件です。

そのためには、まず電気や水道などライフラインをしっかりと確保する必要があります。電力の供給が途切れても、生存率の高い時間帯（ゴールデンタイム）といわれる地震発生から3日間（72時間）を、自家発電設備の運転などにより、救助活動や避難行動支援のために必要となる情報の収集・発信のための通信機器、パソコン、コピー機などの事務機器を稼働できるだけの最低限の電力が確保できなければなりません。次に、帰宅困難者など市民の一時避難への対応です。スペースがなく受け入れできない現状を改善するため、一時避難受入れのためのスペースを確保する必要があります。また、現在、本庁舎に備蓄倉庫はありませんが、災害対策本部や市民の一時避難などで必要となる飲料水や食料、毛布、簡易トイレなどを備蓄するスペースの確保が必要です。そして、大規模災害で重要となる自治体間の相互支援などにも、しっかり対応できなければなりません。さらには、緊急車両の出入りや救援物資などの搬入搬出などについても考慮する必要があります。

これらをできる限り実現するためには、交通アクセスが良く、敷地が広い場所に整備することが条件となります。

また、防災拠点の設置場所にあたっては、浸水想定や土砂災害の危険性、道路事情や周辺施設なども考慮すべき点であり、地震の揺れや液状化、洪水浸水想定において、現本庁舎と旧市立病院跡地に大差はありません。また、災害時には、自衛隊緊急消防支援隊、災害派遣医療チーム、他の地方公共団体からの災害支援隊が庁舎に集結します。そのため、大型車両や特殊車両が駐留できる平地が必要不可欠です。交通アクセスが良く、敷地が広い旧市立病院跡地に必要な施設を新築することで、こうした条件を整備することが可能となります。

なお、具体的な防災対策拠点の機能については、皆さんからいただいたご意見も参考に、今後、市庁舎整備の全体構想を取りまとめていく中で明らかにしていきます。

敷地の比較

	地震動	液状化	津波	洪水	海拔
本庁舎敷地	6強	〈庁舎敷地〉 危険度が極めて高い 〈駐車場敷地〉 危険度が高い	なし	〈庁舎敷地〉 1m～2m 〈駐車場敷地〉 50cm～1m	5.1m
旧市立病院跡地	6強	危険度が極めて高い	なし	〈国道より〉 50cm～1m 〈千代川より〉 1m～2m	6.0m

※地震動：鳥取県地域防災計画において鹿野・吉岡断層でマグニチュード7.2の地震が発生した時に想定される震度です。

※液状化：鳥取県地域防災計画において鹿野・吉岡断層でマグニチュード7.2の地震が発生した時に想定される液状化危険度です。

※津波：鳥取県津波対策検討委員会が公表した津波浸水予測による浸水の深さです。本庁舎敷地、旧市立病院跡地とも津波による被害は想定されていません。

※洪水：国又は県が公表している千代川、袋川、大路川で堤防から水があふれたり、堤防が決壊した場合に想定される浸水の深さです。なお、短時間の局地的な大雨で雨水が急激に集中し、下水道・ポンプなどの排水能力を超えた場合、一時的に水が溜まること（冠水）があります。

【市民サービス】

市民の利便性を考えれば、窓口機能は本来、便利な場所で一箇所にまとまってあるべきです。

市町村合併の際に駅南庁舎を取得して、これまで一定の効果を得てきたと考えますが、10 年近く経過した今でも、本庁舎や駅南庁舎に来られた方に他の庁舎を案内させていただく事例が年間約 4,500 件あること、また、駅南庁舎は窓口スペースや駐車場など建物としての物理的な課題を抱えています。

いくつかの建物に分かれた窓口、バリアフリー化の不備、相談スペースの不足、さざんか会館でのお子さんの健診や催し、確定申告の時期に頻発する駐車場不足の解消など、市民の皆さんにご迷惑をおかけしている市民サービスの現状を、一刻も早く解消しなければならないと考えています。

また、災害が発生した時でも窓口サービスが継続できる体制をしっかりと整えることは防災対策としても重要だと考えています。さらに、現状では市民が気軽に訪れて話をするなど自由に利用できるスペースが十分に確保できていませんが、災害時には一時避難場所としてなど多目的に活用できることから、平常時・災害時の両方での市民サービスの充実強化のため、市民交流スペースの確保も必要です。

これらを踏まえ、市民にとってのわかりやすさと利便性を重視し、手続きが一箇所で可能となる高度なワンストップサービスを実現すると共に、平常時のみならず災害時においても窓口サービスを継続できる新たな施設の整備を旧市立病院跡地で早急に実現したいと考えています。

なお、具体的な市民サービス機能については、皆さんからいただいたご意見も参考に、今後、市庁舎整備の全体構想を取りまとめていく中で明らかにしていきます。

〔いただいたご意見など〕

- ・ 防災機能は新築しないとできないの？
- ・ 市民サービスの充実、防災対応、交通アクセス等を考えれば現本庁舎改修では不十分であり、旧市立病院跡地への新築移転を望みます。
- ・ 防災もですが、バリアフリー化に十分に配慮をお願いしたい。
- ・ 防災、市民サービスの拠点とする庁舎であるならば、当然、本庁舎とすべきであり、その場所は交通の便がよい駅周辺が良いと思う。合併地域の我々としては、本庁舎は駐車場が広く、交通の便がよいところを望む。市民全員が一致して同じ方向性が出るものではない。特に庁舎と言うより市長の反対派というか、セクト集団がいる限り、この問題を盾としていつまでも反対してくる。もはや強引にでも市の方針を貫くべき。
- ・ 新しく建てる庁舎での防災と他の機能でのスペースの割合。過去のどの災害を想定してそなえているのか、具体的な行動計画があつての設計か。建物内に避難所機能はあるのか、何人収容できるか。新庁舎の外が全滅した場合、何日行動できるか。基本的に倉庫で、普段の業務を行うのか、別のスペースを確保するのか、またはその逆のイメージなのか。旧市立病院跡地は魅力が無いから民間が手を出さないのでは、地盤が弱いというし。駅の近くにとの声があるが、市の端っこからそこに向かう手段の設備増強がいるのでは、駅はちっともアクセスよくないです。いっそ駅の真上に建てたらどうですか。窓口サービスの充実と言うが、未だに窓口に行かないとだめですか。合併時整備したケーブルTV網を使って、家で用が済むように工夫してください、老人は買い物に行けないのでスーパーマーケットが山奥に出向いている時代なのに。町役場も同時に新しくしてもらえませんか。市役所以外の一般市民宅も合併特例債を使って強くして新築してもらえませんか。新市庁舎は大震災クラス時に何人収容するつもりで見積もりしていますか、費用対効果の点で疑問があります、税金の使い方、計画に具体性を持たせて発表してください。

- ・ 防災の拠点として現在庁舎では耐震改修しても機能しない、早急に新築すべきです。市民サービスの観点からも窓口があちこちにあり市民にとって大変不便です、一箇所にしてください。
- ・ どんな整備方法であっても市民の暮らしを守られるものであってほしい。特に日常的に必要な窓口など機能と災害時に対応できる機能（市内の災害、他地域での災害）に費用がかかることはやむを得ないと思う。庁舎で働く職員一人ひとりが効率よく業務を進め、全国の見本となるべきと思う。
- ・ 災害時の備蓄倉庫は市役所内に無くてもよい。
- ・ 防災センターの機能が発揮できるのは、どれだけの空間（スペース）が使えるのかによります。新築移転でそのスペースが確保できます。周辺に美保球場、サッカー場、洪水時でなければ千代川河川敷などが活用でき、災害時により活用できる。建設時、改修時に地震が発生するリスクを考えたとき、市役所の機能がマヒします。移転の場合はこのリスクはない。
- ・ 防災と市民サービスの充実強化のため、ぜひ進めてほしい。
- ・ 鳥取駅やバスターミナルなど交通アクセスの接近した位置の旧市立病院跡地への新築による鳥取市本庁舎を建築して、鳥取市行政の中心拠点として市民サービスの窓口を 1 箇所に集約し、利便性を向上させることと、防災対策機能の多機能集約と高性能化を実現して市民を守る拠点とすると共に、防災援助協定を締結している他県の市町村への信頼に的確に応えられる拠点として、更に市役所を訪れる市民が安心を得られて楽しくなるような施設を併せた市民の誇れる市庁舎として整備していただきたい。東日本大震災では役場の庁舎も中で働いていた首長をはじめ職員も多く書類や資機材も流され、他県から職員の派遣を得て復興に取り組んでいるところがある。また、奈良県は東京都と防災協定を締結しながら、防災食料を全く備蓄していなかった。心すべき事例である。
- ・ 現庁舎位置は県庁、病院、学校等も近く、防災拠点としても優れている。市庁舎自体のうんぬんは利便性、防災などあらゆる点でなんせんす。
- ・ 防災と住民サービスは新築でなくても知恵を出せばできる。
- ・ 市民サービスで行政窓口が分散していることを解消との説明があったが、現在の第 2 庁舎は大変行きやすい便利で親切でちっとも不便を感じていない。上に図書館、高齢者福祉センター、さざんか会館など高齢者、障害者にとってはまことにいい場所にあると思う。
- ・ 防災拠点として市民病院跡地をあげられましたが、一昨年の夏に夕立が降り、見る間に水に浸かったことを記憶しています。本当にこの場所でよいのでしょうか。
- ・ 市民サービスについて、今のままで十分です。不自由に感じたことはありません。施設の部署は市の広報を十分にすることで可能。防災について、災害時は市民病院跡地は交通の大渋滞地域で今以上の混雑が予想される。この地は適当ではない。
- ・ 新築場所、バスターミナル、駅に近く、大いに市民サービスに貢献。新築・耐震、論戦しては前に進まない、耐震は物理的金額面で昨年 5 月の住民投票の環境から大きくかけ離れている。防災、これから何百年先に起こるかも判らない震災について大きく必要性を言われてもピンとこない。
- ・ 本庁舎、市民病院の跡、地盤のこと、土質などを再度考えていただきたい。
- ・ 旧市民病院跡地は地盤が弱く、高層建築に適しないと言われている。そのような所に防災拠点を置いてもいざというときに機能するはずがないと考える。
- ・ 市長は機能の整備と費用の節減を考えるならば新築することは無駄であり、防災機能は発揮できない。現本庁舎耐震改修に大賛成です。市民病院跡地の新築には大反対です。
- ・ 防災はまず市民全体のことであり、市役所は後で良い。
- ・ 災害を考えるなら庁舎は分散すべき。まして地質のわるいところに建設するなどもってのほか。

- ・ 市民病院跡地は地盤が軟弱、コロコロ都市計画を変え、交通アクセスの整備まで必要となつてく（気まぐれに見える）ようなところに移すことは反対。
- ・ 防災と市民サービスについては新築によらず、現状のまま広報をすればよい。広報不足である。広報を進めてください。
- ・ 防災、市民サービスについて最も大切なことは、地元でできることをシミュレーションすることです。災害時拠点はあくまで市民に身近な集落単位です。市庁舎は全ての拠点になる必要はありません。各地区に防災センター機能を付加すれば良いのではありませんか。これで全体構想をとりまとめるとは本気（正気）とは思いませんが、こんな鳥取市に失望しました。
- ・ 整備の基本的な考え方では防災と市民サービスの充実強化ということであるが、この２点だけでは庁舎として成り立つかどうか、現在、分散していて市民サービスが低下している状況の中、その解消を図るためには旧市立病院跡地の移転新築を積極的に進めるべきと考える。

（３）「庁舎の機能は、旧市立病院跡地と駅南庁舎への集約を基本として検討を進めます。なお、総合支所については、今後とも各地域に存置します。」について

〔市の考え方〕

【庁舎の機能の集約】

市民の利便性を考えれば、窓口機能は本来、便利な場所で一箇所にまとまってあるべきと考えています。そのため、多くの市民にとって便利な場所である鳥取駅周辺に位置する、合併後に取得した駅南庁舎と旧市立病院跡地に新たに整備する施設に、庁舎の機能を集約することを基本としています。

【総合支所】

総合支所は、防災、市民サービス、地域振興の拠点として、今後とも各地域に存置します。

〔いただいたご意見など〕

- ・ 本庁舎新築より各総合支所を速やかに整備し、鳥取市民全員のことを考えて欲しい。
- ・ 説明を聞く中で、新築移転が望ましいと改めて感じた。合併地域住民にとっても、旧市立病院跡地と駅南庁舎はアクセスしやすい場所と思う。
- ・ 建設場所は、鳥取市の将来（３０年から５０年先）を見越して、駅南・市立病院跡地とすべき（防災、市民サービス、その他でも）。庁舎建設により、将来の市の活性化が図れる展望が生まれること。庁舎のライフサイクルコストが少なく済むこと。耐震改修では今後２０年～３０年で新築を行わなければならないことが起こる、等々問題の先送りになると考えます。
- ・ 合併１０年余、本庁舎へ一度も行ったこともありません（必要性）、支所の機能を強化して、予算措置と権限を補強する、職員教育の徹底、サービス、業務効率の向上を。将来の支所はどうするのか、廃止か？
- ・ 将来にわたる市役所のあり方、整備を考えるのであれば、市立病院跡への整備を総合的なまちづくりの中で検討すべきであると思います。
- ・ 駅南庁舎の窓口も含め、旧市立病院跡地に集約すべき。
- ・ 総合支所を充実させてください。電車、バスに乗って市内まで出かけさせるのですか。それが市民サービスだとは思えません。立派な庁舎は必要ありません。
- ・ 必ず各総合支所は残していただきたい、また総合支所にもっと権限を与えるか、本庁に確認します、というようなことではなく、職員の資質向上を望む。
- ・ 支所の充実があつて安全安心の生活が保障されます。一極集中では防災に弱く、不便ですし、新しい庁舎に駅南庁舎を時々利用しますが何の不都合もありません。むしろ市民の日々の生

活のソフト面の充実に向けることを望む。市民の幸せは巨額の金を必要とする新庁舎を持つことではない。

- ・市民病院跡地に新築移転するということではないのですか。本庁舎の使い方を検討するということは移転するということですか。そうでないなら現本庁舎、駅南、新庁舎でワンストップサービスができるのでしょうか。今と同じになるのでは。

（４）「既存の庁舎について、庁舎機能の全体的な配置、費用、まちづくりなどの観点から適切な活用について検討を進めます。特に、本庁舎については、建物の用途、改修・維持管理に要する費用、本庁舎の周辺地域の活性化などに関して、幅広く検討を進めます。」について

〔市の考え方〕

【本庁舎】

本庁舎の活用については、建物の用途、改修・維持管理に要する費用、本庁舎の周辺地域の活性化などに関して今後必要な調査を行うとともに、皆さんからいただいたご意見も参考に、幅広く検討を進め、全体構想を取りまとめる中で明らかにしていきます。

【まちづくり】

本市は、いわゆる一極集中型の都市ではなく、広域的な拠点となる「中心市街地」と地域の日常生活を支える「地域生活拠点」を公共交通網により有機的に結びつけることで、鳥取市全域において、都市機能と生活を支える機能を確保し、快適な都市環境の構築を図る「多極型のコンパクトなまちづくり」を進めています。

１【中心市街地】

平成 25 年 3 月に策定した第 2 期鳥取市中心市街地活性化基本計画では、計画期間中の 5 年間で目指す中心市街地の姿として、1 期計画と同様に「2 核 2 軸の都市構造を踏まえたまちづくり」の考え方を引き継ぐとともに、新たに地域の特性や既存の取組みを踏まえた複数のゾーンを設定したうえで、各ゾーンの機能の充実と相互の連携を図る「エリアコンセプト」をまとめました。

その中で袋川以南の鳥取駅周辺地区は「因幡の都市核として駅を中心に都市機能が集中・集積する舞台」、袋川以北の鳥取城跡周辺地区は「歴史・文化等を有する豊かな居住・交流の舞台」と位置付けています。

このエリアコンセプトをもとに、「街なか居住の推進」と「賑わいの創出」を基本方針として、重点的に取り組むことで、中心市街地の活性化を図りたいと考えています。

（重点施策と具体的事業）

- ①空き家、空き地など既存ストックの利活用の促進と転入施策を一層強化することで、新規定住者の増加を目指す。
街なか居住者支援事業、既存ストック活用支援事業、戎町にぎわい創出拠点整備事業、鳥取赤十字病院整備事業など
- ②鳥取駅周辺の多様な機能の活用・拡充するとともに、駅前太平線「バード・ハット」等の活用により、駅周辺の魅力・集客力を向上する。
市道駅前太平線賑わい空間活用事業、鳥取駅南口交通広場整備事業、空き店舗対策事業、新規創業・開業支援事業、各商店街活性化事業など
- ③ 100 円循環バス「くる梨」の緑コースの増設など公共交通の拡充等による中心市街地内の交通環境の改善・回遊性の向上を図る。
100 円循環バス「くる梨」運行事業、市道弥生橋通り整備事業など
- ④鳥取城跡周辺の案内機能、駐車場機能、商業機能等を整備・改善するなど地域資源の活用により観光交流を促進する。

鳥取城跡大手登城路復元整備事業、市道山の手通り整備事業など

2【地域生活拠点】

鳥取市都市計画マスタープランでは、各総合支所が所在する 8 地区などを地域生活拠点に位置づけており、それぞれの地域特性を活かしつつ、居住、交通、福祉・文化等の諸機能を充実させ、地域の日常生活を支える生活の拠点として再生させたいと考えています。現時点では、用瀬地区と青谷地区で取り組みが進んでいます。

今後、他の地域生活拠点の再生についてもそれぞれの地域の特性にあったまちづくりが実践されるよう必要な支援を行いたいと考えています。

3【その他の地域】

①市街地

多極型のコンパクトなまちづくりを進めつつも、産業基盤や観光基盤などの充実も適切な対応を図る必要があります。周辺との調和に留意しつつ、計画的に、より一層の土地の有効利用を進めます。

②中山間地域

自立した地域コミュニティを維持するための定住の促進や農業生産力の強化、地域の大部分を占める山林・農用地が有する災害防止や水源涵養等の機能の維持・保全を進めます。

【いただいたご意見など】

- ・ 鳥取市の将来ビジョンがわかりにくい。どんな地域づくりをしようとしているのか言葉のかぎりはあるが、なぜするのか理解できないことが多い。バードハットで何が変わるの？
- ・ 市民病院跡地に新築しても鳥取市のまちづくりが進むと思われない。
- ・ 現庁舎については、周辺地域の住民意見を聴いて対処すべきである。考え方としては、減築し、美術館等への転用も考えられるがどうか。
- ・ 古い鳥取市を大事にすることも大切かと思うが、現在の鳥取市は県都であり、東部の中心である。新しいまちづくり、地域づくりの視点を忘れてはならない。
- ・ 現本庁舎は減築して、耐震改修し、産業（伝統工芸）育成のための工房、展示販売施設にしようでしょうか、あるいは緑地公園はどうでしょう。
- ・ 本庁舎をどこにおくのかの位置条例の可決について、どのように臨まれるお考えでしょうか。
- ・ 現市庁舎に関しては、確かに古く、せまく、応接の場所もない庁舎であり、建て替えが必要だと思っています。
- ・ 現庁舎の再利用を考えていただきたい。
- ・ 移転支持の立場から庁舎跡地の利用について書きます。市誘致の看護学校をここにではいかかでしょうか。また県立の保育専門学校を募集停止にされましたが、保育士養成機関は必要です。保専復活の意味で、市と県で検討されて、この庁舎跡地に再置してはいただけないでしょうか。看護学生も保育学生もよく勉強し、かなり優秀です。設置者側は自分の持っているものの価値を正に判断していただきたいと思います。
- ・ 今の市庁舎を移転すると市内はますますさびれていく。今の場所が一番良いのではないかと。市民あつての市役所だということを忘れてる。
- ・ 現在地がいいのか移転がいいのか。移転の場合に庁舎周辺はどのような整備計画になるのかを（構想を）知り考えたい。
- ・ 合併でほったらかしの中山間地の方々の暮らしと命を守っていくのは重要で急がれるのではないかと。鹿やいのししで荒らされ、農業も駄目になっている。

- ・鳥取市街地の商店街の空洞化は目に余るものがあり、若桜街道のシャッターが日曜日の昼間も多く閉まっている。車社会で駐車場がうまく活用できないこともあるが、税金の使い方について市民を交えた議論ができていない。議論を積み上げ、市民の信頼を裏切らない市政が望まれます。
- ・市庁舎はまちづくりに大きな影響を与えるものであり、まちづくりの考え方をキチンと説明すべき。
- ・市庁舎整備の基本方針案には現庁舎の耐震改修の費用など金額が全く示されていません。
- ・現庁舎は市民会館の駐車場にしてください。
- ・市庁舎が駅南に移れば商店街は消滅し、鳥取らしさのない薄っぺらな金太郎あめのような鳥取市になると思う。鳥取大好きな私はとても残念です。

2 財政、財源

〔市の考え方〕

【市の財政状況】

鳥取市では、第 9 次総合計画及び第 5 次行財政改革大綱に、人口減少などによる地方交付税の減少、庁舎整備などの大型事業を見込んだ上で中長期財政計画を立て、将来的に安定した財政運営となるよう努めています。また、将来の負担を軽減するため、市債(借入金)残高と公債費(借入金の返済金)は、長期的に減少させる取り組みを進めております。庁舎整備にあたっては、現在まで積み立てている基金(平成 25 年 5 月末現在約 150 億円)等を活用することで新たな負担を求めることなく庁舎整備を実現できるものと考えています。

なお、借入金の返済能力に着目した財政指標として、将来負担比率があります。この指標における負債には、一般会計はもとより、特別会計、水道・病院といった企業会計、消防や後期高齢者医療制度などを担う一部事務組合、土地開発公社などの第 3 セクターまで含まれていますので、全体像を把握するには最も適していると言えます。350%を超えると財政的に黄信号とされていますが、本市の直近数値は 23 年度 117.2%で、指標の算定が始まった 19 年度から 4 年連続で改善となっており、財政的に何ら問題もなく、市民の皆さんが負担に苦しむといった水準にありません。(参考：夕張市 891.3%、松江市 192.0%、米子市 179.0%)

【合併特例債】

通常、庁舎整備を行う場合に活用できる国の支援は無く、合併市町村のみに認められている合併特例債はその元利償還の際に国から 70%もの交付税措置を受けることのできる他に類を見ない有利な借入金です。

なお、合併特例債が当てにならないとのご意見がありますが、合併特例債の発行期限を 5 年間延長する特例法が成立していることから、合併特例債が望めない状況になどならないことは明白であり、実際、平成 24 年度の鳥取市の地方交付税の算定においては、これまで発行した合併特例債の当年度分の償還額の 7 割にあたる 11 億円が交付税として加算されています。

【いただいたご意見など】

- ・合併特例債と基金を活用し、市民の負担を求めないと言われていますが、基金を使うことは市民の負担だと思う。合併特例債は返さなくて良いのですか。
- ・意見にあったように「市民負担はいらない」というのには疑問。こういうものを作ろうと思えば、いくらかかるかもしれないが・・・という提案もありでは。「負担なし」は強調すべきではない。
- ・財政は、本当に市民の負担は無いのか。
- ・庁舎整備を行うことで費用の面など新たな負担が発生しないのであれば新築移転に賛成し

たいです。

- ・西尾市長の時の基金が減ってきていると聞きました。いったいいくら残になっているのでしょうか。合併特例債のみの説明ですが、今は庁舎建設について住民負担は無いと言いますが、トータルした上で今後住民負担は出てくるのではないのでしょうか。市民としては不信感で一杯です。
- ・合併特例債についての説明、ライフサイクルコストについても説明がわかった。
- ・合併特例債について大いに疑問あり、真実を語ってもらいたい。
- ・鳥取市の抱える借金是一般会計、特別会計を合わせて 3000 億円近いと聞きます。近い将来、人口は 3/4 に減少し、少子高齢化が進む中で、これ以上の借金を抱えることには絶対反対です。昨年の住民投票で多数の市民が現在地での耐震改修を選んだのはそういう理由によるものです。
- ・赤字国債、市債で子孫のふんどしで相撲を取ることに對してどう考えているのか。しかも利益を生み出さない投資に対する考え方はいかがか。人口減少社会への対応となるものかどうか。
- ・市の財政は健全化ではない、市民への負担は無いというのが信用できない。
- ・費用の件ですが、どのくらい積立金があるのですか。本当に子どもたちに負担がないとは信じがたいです。
- ・地方交付税も今後減額される要素もあり、確約できるものではない。
- ・建設費等の財源は合併特例債と積立て済みの基金（貯金）を活用するので市民に新たな負担を求めないと記載されていますが、福祉等を削り積立てた貯金が無くなれば市民はますます全国的に見ても最低な生活を送らなければならなくなると思う。
- ・地方交付税といえもともと国民の税金であるし軽減の傾向あり。合併特例債は借金であり、地域活性のためにも国府の民意を反映し、地域住民のために使用してほしい。
- ・現在、有利な財源がある中、後年への負担を軽減するため、今新築移転を進めるべきである。一般財源として将来へ負担をすることは避けるべきである。庁舎整備を行うにあたっては費用は極力おさえるべきではあるが、建物の設計にあたっては十分な余裕を持ったものとする（多少の負担増もやむを得ないのでは）。

3 市民への説明、情報提供

〔市の考え方〕

市民の皆さんに、広く情報提供すると共に、しっかり意見を伺っていきます。市民の皆さんにご理解をいただきながら、事業を進めていくのが市の責任です。

市民の皆さんへの説明は、このたび開催した市庁舎整備に関する説明・意見交換会に限りません。要望に応じて説明に出向く、出前説明会も行っています。

今後とも、市としての説明責任を果たすよう努めます。

〔いただいたご意見など〕

- ・時間制限や条件をつけて会議を進めることは市当局の勝手な言い分で「説明会」を行ったという「アリバイ」工作にしかすぎない。二重、三重の悪い市政にうんざりです。
- ・とても変な会だった。鳥取市は駄目だ。市民として恥ずかしい。
- ・新築・移転賛成の方の意見が多少出たが、勉強不足と論理の構築に力不足が目立った。賛成するならするでもっと勉強してほしいです。
- ・市民として重要な政策を判断するに当たり、適正な本市の将来を考慮しての判断にしたいと思っていますので、以後の情報提供に留意していただきたい。
- ・意見をきいてください。時間が少なすぎます。コンピューターとの会話みたいでした。

- ・私のまわりで地域の役職員が多すぎる。
- ・賛成・反対、全部公表してください。一方に偏ったようなことは良くないと思います。
- ・現本庁舎の老朽化・課題をもっとPRしても良いと思う（見学会など）。
- ・竹内市長に失望した。市民の意思決定（住民投票）を無視する姿勢と言いつばかり。進めるための全体構想は単なる作文集にすぎないと思われる。
- ・市長ばかりが答えているが、担当局長、部長も専門の立場から根拠のある説明をするべき。回答、あいさつに心がこもってない、事務的である。
- ・分かりやすい情報提供に努めてください。
- ・討論会の開催は是非やってほしい。市民の会と市当局でやってほしい。時間十分とること。
- ・市長さんに市民との対話を重視し直接に話し合っていたきたい。
- ・ホームページと言われても、我が家ホームページ見れない。
- ・市の進め方は強引だ。もっと市民の意見を尊重せよ。
- ・2段階で市民の意見を集約することを勧めます。1、何が求められる市民の暮らし、行政によるサービスかについて、優先順位も含めて市民の考えを問う。2、その結果に基づいて、どのような方法がそのあるべき姿を最も良く対応できるか、市民の知恵を集める。松坂市が実施していますから学習すべきでしょう。
- ・市の方針を市民の理解のもとに早期に推進を。
- ・もっと市民のことを大切にすること。民主的な運営が基本です。
- ・鳥取市を2分した今回の問題、前回投票前の事前説明会が不十分なため、あのような騒動になった教訓が今回生かされていない。市長方針を発表する前に各小学校校区で説明すべきでなかったか、また専門家委員会のアンケートについても20代～30代の若者の意見を多く取り入れるべきではないか。
- ・私はこの市民説明会に全部参加しました。市長は焦点をぼかした答弁によりうまく逃げ回り、この場を切り抜けようとしています。ごまかしや嘘はだめです。市民と膝を付き合せ話し合わないとはだめです。今後も市民説明会を開いてください。
- ・市長は市民皆の思いを重視すると言っておられますので、新聞に市長の対談（小野氏と）を大きく載せていましたが、そんなことより意識調査の自由記載が多く寄せられているようですので、項目ごとにでも分けすべて記載して全市民に知らせてください。

4 住民投票

〔市の考え方〕

住民投票が適正に実施された場合は、その結果を尊重しなければならないことは一般論としてあります。

しかし、鳥取市庁舎整備に関する住民投票は、市議会が提案し、昨年5月に実施され、2つの選択肢のうち現本庁舎の耐震改修及び一部増築案が選ばれたものの、その後、昨年12月、市議会「鳥取市庁舎耐震改修等に関する調査特別委員会」が、選ばれた案の内容のままでは実現できないと最終報告し、具体的な方向性は示されませんでした。

このたびの市庁舎整備の基本方針案は、耐震改修か新築移転かという二者択一の次元で考えているものではありません。住民投票も過去の経緯の一つとして踏まえつつ、これまで寄せられた市民の皆さんの意見や意向、専門家委員会の報告書や議論、市民意識調査などを踏まえ、現時点での考え方を示したものです。

〔いただいたご意見など〕

- ・住民投票まで実施した責任者は誰ですか。住民投票に至るまでになぜもっと議論をしなかったのですか。市民に色々なグループができ、色々な世論が生まれた。どう集約するか、とて

も大変だと思われる。

- ・耐震改修は本当にできないのですか。何を根拠に市民意識が変わったと思われますか。
- ・アンケートの自由記載の住民投票の項を読んだ。その結果、約 300 人の意見が住民投票の結果を尊重すべし、約 70 人が尊重を大なり小なり否定、このことからして民意が変わったとは言えません。耐震改修の民意は変わっていません。住民投票軽視＝民意軽視。今頃のアンケートでは考えられないほどの多数の自由記載の意見を大切に、民意をくみ取る努力が必要。
- ・住民投票の結果を尊重すべきです。
- ・平成 24 年 5 月に行われた住民投票に対して、議会、鳥取市より提供された情報は客観的かつ正確なものでは無かった。これは非常に残念でなりません。
- ・アンケートと住民投票結果とも、耐震改修が多かった。1%でも多数は多数、多数決は小学校からの民主主義の教養レベルの原則である。そもそも投票結果をアンケートと同列にする竹内市長に民主主義を語る資格は無い。
- ・住民投票を経過の一つとして見るのではなく、住民の重要な意思表示です。住民投票の結果にそった事業推進を求めます。
- ・疑問点がまだまだありすぎる。行政として「住民投票」の結果を尊重すべきだ。
- ・子どもや孫の世代に負担を残さないためにも、住民投票で決まった現在地での耐震改修を進めるべきである。住民投票結果を無視して新築移転を強行することは鳥取市のイメージを悪くするだけである。
- ・住民投票で耐震案が決まりましたが、そもそもこの住民投票が間違っています。というのは新築・耐震の 2 点ですが、実際には新築（85 億円）耐震（25 億円）ですので、住民投票ではこの金額の点で決まったものと思われるからです。私は新築案に賛成です。
- ・住民投票を尊重せよとだけ言いたい。
- ・市議会が迷走したため、市民も迷ったと思いますが、耐震改修案が実現不可能と結論されたのは当然の帰結であり、頭書から冷静な議論がされていれば、当初から結論できていた筈です。
- ・市長は自分の発言したことに責任を持て。住民投票を尊重すると公の場で発言したではないか。あれはウソだったのか。民主主義を尊重しないのか。いままで市庁舎整備で市民の税金を 1 億円以上使っている。市民の税金をドブに捨てるようなことばかりしている。税金を返せ。今ある市の建物で防災を考えろ。100 億、200 億も使って新庁舎を建てる必要があるか、これから人口が減少することを考えているのか。市民を馬鹿にするのもいい加減にせい。
- ・去年の住民投票結果を尊重して現在の本庁舎の耐震改修を進めるべきである。
- ・問題ある委員会が出した「耐震改修は実現不可能」という結論自体は無効。その結果を公表した後で行った市民意識調査自体も無効。去年の住民投票の結果を尊重すべし。
- ・住民投票の結果、耐震改修を多くの住民が求めたのに対し、市長は尊重するといいながら、無視して新築しようとしている。市庁舎問題をここまで混乱させた責任は「市長」にある。
- ・市議会特別委員会、専門家委員会どちらも住民投票の結果を受けて基本設計に入る段階で検討すればよいことです。まず「住民投票の結果ありき」なのに、1 年という年月、さらに多額の費用をかけて耐震改修案そのものを「実現できない」と結論づける。絶対権力をバックに民意さえ強引に誘導する。まるでブラック企業です。勇気、真心、真実などどこにもない。「市民の意見は十分聞いた」「住民投票は経過の一つ」市庁舎問題で市民を分断した責任は市長の強引な姿勢にあります。なぜここまで急ぐのか不信感が増すばかりです。
- ・耐震を基本に進めるべきと住民投票を経過とはなにごと考えている。
- ・住民が足を運び意思表示した住民投票の結果に基づき、市長がやるべき仕事を放棄しておい

- て時間が経過して市民の考えが変わったというのはおかしい。「耐震改修」で進むべき。
- ・整備内容や経費に関すること以上に、市民をだまし、市民の意思を一方的に無視しようとしているやり方が許せない。
 - ・住民投票について再度考えていただきたい。
 - ・昨年の住民投票はなんだったのだろうか。とても疑問。その時までに出されていた市側の説明よりも数多くの設備関係のことが委員会に出されていた。もっと公平にするべき、この点で私は新築に反対します。
 - ・現在地での耐震改修は工夫すればできるのです。市議会の調査特別委員会の最終報告では、住民投票の結果を尊重すると明記されている。住民投票の結果以上の市民の意見は無いと考える。
 - ・市民投票を無視することに対する。
 - ・市庁舎整備は民意に基づいて耐震改修でやることが市の義務です。とにかく住民投票を軽くみない。5 万人もの人が望み行使せざるを得なかった住民投票そして 4 万 7 千人もの人が支持した。この民意を無視することは行政として失格です。
 - ・市民の意識は変わっていない(アンケートの自由記載の意見をチェックしたが耐震改修が圧倒的に多い)。住民投票 2 号案、実現できないという日本設計の検証自体があり得ない。
 - ・住民投票(実施に至る経過に問題はあるものの)が実施されたのは良かったと思い、その結果を基に進められると思っていましたのに、「経過の一つ」とされるのでは、これ以上、何をかいわんやだと思えます。選挙で決着をつけるべきです。任せられません。
 - ・少ない経費で耐震改修できるのであれば望ましいと思って投票しましたが、あの額では不可能と言われても馬鹿にされた思いである。正確な工事金額による住民投票をもう一回やってほしい。住民投票後に考えが変わり、新築に賛成。同じような考えの市民は多いです。
 - ・市民でありスポーツマンの立場から見て発言します。まずあなたはフェアではない。市長あなたは市民の総意である住民投票の結果を無視し、市民病院の跡地に議会の承認もなく新築を提案している。日本設計と発注者の立場を大いに利用し結託してものごとを自分のいいように進めておられます。
 - ・住民投票の 2 号案は実現不可能なら、市庁舎整備局が 2 号案を受け止めて 2 号案を基本にして耐震改修案(実現可能な)をつくるべきだ。市長は住民投票結果を尊重するというのは地方自治法で決まっている。市民意識調査で市民の意識は変わったとあるが、市庁舎整備にできるだけお金をかけず、くらし、福祉、旧町村への支援を優先してほしいという市民意識は変わっていない。調査の設問の仕方が情報不足ではないか。
 - ・議会の調査特別委員会の報告では「第 2 号案のままで実現できない」との表現はあるが、耐震改修そのものが実現できないとは述べられていない。住民投票では金額だけではなく歴史ある鳥取にふさわしい現在地での耐震改修を選んだ市民も多いと思う。
 - ・結果的に不可能な事項を掲げ(耐震改修)での住民投票、一部の感情的な者(アンチ市長)が扇動して(された者もいて)実施された住民投票の結果はあまりに価値がなく、今後取り上げる必要はないと思えます。選ばれた市長、議員により、今示されている基本方針案に基づき速やかに推進してください。

5 鳥取市庁舎整備専門家委員会

〔市の考え方〕

鳥取市庁舎整備専門家委員会の委員は、専門的な学識または経験を有する者を対象に、市として公正公平な視点で任命したものです。

専門家委員会の報告では、市庁舎に必要とされる機能や効果の整理とともに、方針決定に当たって判断すべき、防災拠点に求められる機能、庁舎機能の実現に必要な面積、庁舎の窓口機能や

統合分散による影響、駐車場、バリアフリー化、ライフサイクルコスト、まちづくりなどの重要な視点が示されました。

専門家委員会の委員には、客観的かつ公正に審議いただけたものと考えており、議論の経過や内容は、専門家委員会ニュースなどでも市民の皆さんに情報提供されています。

〔いただいたご意見など〕

- ・ 調査専門委員会の意見聴取（アンケート）の依頼者が不明だ、恣意的すぎる。
- ・ 専門家委員会なるものへの疑問。彼らの「専門性」なるものがいかなるものだったのか。私は改修すべきの立場です。
- ・ 市庁舎整備専門家委員会、委員の人選に問題あり。
- ・ 専門家委員会を都合のいい人ばかり選び、新築に無理やり導くやり方はどうしても納得いかない。
- ・ 専門家委員会は大いに疑問。
- ・ 専門家委員会なる自分の支持する応援者を集めた専門家でない専門家による委員会をうまく利用し、誘導し作製した意識調査は詐欺行為に値する。アンケートは小野教授の統計学をうまく利用し、市民意識が変わったと巧妙に誘導している。無効と思います。市民病院跡地の新築は市民は承認していない。

6 市長、市議会

〔市の考え方〕

市庁舎の耐震化から始まった防災に対する問題、また市民サービスの改善の問題は、放置できない緊急かつ重要な課題です。市長として与えられている今の任期の中で、最大限前進をさせるため、全力を挙げて取り組むという固い決意でいます。

〔いただいたご意見など〕

- ・ 来年 4 月は市長選挙。竹内市長はその選挙で改めて信任を問うべきでしょう。それこそ使命と心得てほしい。一般社会のルールとしては、住民投票の結果を尊重し耐震改修の基本設計に入るべきでした。市長の独走の元、言いなりの議会と市職員、その市職員の動員の多さにあきれています。
- ・ 昨年 5 月の住民投票を実施させた市議会の責任はどうか。議会の中では説明会を開いているので責任は果たしたと言っているが今後でも責任とるべきである。
- ・ 市長選挙で争点とすべき。
- ・ どちらが良いのか判断できません。市長と市議会の方針に異は唱えません。
- ・ 市政の責任者としてある市長の英断とリーダーシップで本日の基本方針案で推進すべきである。これ以上論議しても時間と経費のロスである。
- ・ 市議会議員数を半数にすべき。7 月 21 日の参議院選挙を留守にするので、不在者投票に行きました。あの異様な雰囲気には驚いた。税金で事を運ぶ役人の世界の象徴がそこにあった。
- ・ 議会がダメ、しっかりしろ。市民が困る。
- ・ 市長は議会を解散すべき。市長辞任。
- ・ 耐震、実現不可能と言った日本設計は果たして正しいのか。なぜ民意と市長、議会の乖離があるのか。利権？信頼回復望む。
- ・ 庁舎問題で市民が行政に関して口出しするのはいかがでしょうか。市議会、調査委員会で詰めの話し合いをされた上で、市長が最終的にどうするか決められては良いと考えます。
- ・ 元建設官僚のあなたはなぜこんなに新築にこだわるのでしょうか。美味しい汁の味が忘れられないのでしょうか。

- ・どうしても新築したい、しなければならない事情があれば、それをマニフェストに掲げて市長選に出て審判を仰いでください。

7 その他

〔市の考え方〕

旧佐治中学校は、体育館を避難所とするよう指定されており、耐震基準は満たしております。また、鳥取市西地域の中学校については、現在、第 11 期校区審議会において審議を行っているところであり、地域や保護者などによる子どもたちにとって望ましい教育環境はどうあるべきかのご意見を踏まえた、審議会としての答申をいただいた後に、教育委員会としての方向性を定めたいと考えています。

その他の事業の進め方にもご意見をいただきました。今後の市政運営の参考とさせていただきます。

〔いただいたご意見など〕

- ・それよりも旧佐治中学校の耐震工事はなぜしないの？地域の避難場所として整備要望を出さないのはなぜ？市庁舎より先でしょう。
- ・その他、町民の長年の願いであります青谷中学校の新築についても強く希望します。気中、鹿中との合併には反対です。
- ・市民会館を廃止して、病院跡地へ。全国版TVにも出ていて市民として恥ずかしい思いである。
- ・公平性に欠けている、すべての面で。駅前のアーケード、ガイナレの練習場、公平なの？
- ・例えば駅前のアーケード（ドーム）、中高生でも「なんであんなものに金をかけるだ、もっと使い道があると思う」と言っている。
- ・旧市内の赤青緑のコース別100円バスを手本とし、国府町にもコースを設定し、合併特例債を利用し、高齢者社会福祉の便益を図る。